

単元	タイトル	講義内容
講話 A	プロローグ	「教職救世塾」開設の理由
【1】	教育の意義を問う	教育の必要性と教育者の役割
1-1	教育とは何か	そもそも教育とは何をするのか 我が国の教育がめざすもの
1-2	教師とは何か	教師の役割は「授業提供者」ではない こんな教師はもういない
1-3	我が国を取り巻く諸問題	世相を簡潔に解説できるか 社会への貢献内容を語れるか
1-4	21世紀の教育の課題	これから学校に求められる変化 生き残る教師、居場所をなくす教師
【2】	クレーム社会ー日本	クレーム多発の背景と対策
2-1	モンスターペアレントはなぜ増えたか	教育環境悪化の真因は商業政策にあり 偽りの民主主義と日本の美徳の終焉
2-2	戦後日本はなぜ成長を誤ったか	日本の美徳を駆逐したもの 国家公教育における重大な欠落
2-3	クレームはなぜ発生するのか	クレーム発生の仕組みと予防策 クレームは必ずしもマイナスではない
2-4	最高裁判例に見る教育の危機	裁判に発展したクレームの事例 本当に学校だけが悪いのか
【3】	子どもたちとの意思疎通	コミュニケーション改善の方策
3-1	成長とは何か	教師は教えることをやめよ 教育の究極の目的は何か
3-2	コミュニケーションー3つの柱	戦後教育最大の失敗～学力偏重の罠 「主体的・対話的で深い学び」のために
3-3	なぜ子どもたちは「不機嫌」なのか	国が求める「家庭教育」と現実 鈍感な教師が陥る落とし穴
3-4	なぜ子どもたちは不安定なのか	対極的な「自我」のあり方の変化 褒めることが最善の策ではない
【4】	自己ブランド力の確立	セルフマーケティングの極意
4-1	自分らしさとは何か	自分の人生の主役は誰か 「その他大勢」の一人とならないために
4-2	売れる人、売れない人	売れる人の条件は二つだけ 資格は仕事を連れてこない
4-3	ブランドは知覚価値である	「やりたい」と「売れる」は違う ブランド性を高めるもの
4-4	専門性の罠	スペシャリスト／ゼネラリスト 専門性の活かし方

単元	タイトル	講義内容
講話B	コラム	藤井が教職を捨てて教師と関わる理由
【5】	イノベーション力を持つ	次世代育成のカギとなる変革と手法
5-1	なぜ教育界は力を失ったのか	マクロ視点を持たなかった教育界 部分最適と全体最適
5-2	施策・政策には寿命がある	頂点に立った時が最も危険 ステークホルダーの声を聴け
5-3	余力なければ変革なし	学校経営には5つの資源がある 3つのコストを低減せよ
5-4	顧客マインドを持って	学校収入を2倍にするには？ 生き残りのカギ～CRMとCSR
【6】	道德教育の根拠を問う	なぜ人類に道德教育は必要なのか
6-1	道德カリキュラム化の功罪	そもそも道德とは何か、倫理とは違うのか 「衆愚政治」日本国の真の危機とは
6-2	なぜ日本人の道德観は薄れたか	戦後教育のある「偏り」 当たり前の愛国心をなくさせたもの
6-3	道德教育の根拠を何に求めるか	カギは天界の法則・自然の摂理 唯一「利他」ではない生物「人類」
6-4	SDGsの重要性	SDGsをスローガン化することの罪 日本文明が世界道德の標準となる日
【7】	教育再生とマーケティング	教育復活のカギはマーケティングにあり
7-1	なぜ今、教育にマーケティングなのか	マーケティングとは何か 「生きる力」を成立させる必須の要素
7-2	マーケティングの本質	自分を売り込めなければ生徒も売り込めない 教育者こそ顧客創造力を持って
7-3	教育再生のカギは教育にあらず	異分野から捨てられ、遅れすぎた教育界 なぜ教育政策は後回しにされるのか
7-4	日本の危機を救ってきたもの	古来、国家の危機はビジネスで救われてきた 公教育と私教育との違い
【8】	マネジメント基礎	マネジメントで職場も自分も救え
8-1	「今できることを頑張る」恐ろしさ	今できることを頑張る人に成長はない 5年後、10年後に必要な力とは何か
8-2	マネジメントの基礎的な仕組み	ゴール設定とプロセス構築 「全員参加型」の愚を繰り返すな
8-3	チームの情熱温度を上げる方法	チームを動かす4つのマインド マネジメント7原則と3点バランス
8-4	仕組みづくりと定義のイロハ	仕組みとは何か、どう作るか 仕組みづくりの定義5条件

単元	タイトル	講義内容
講話C	コラム	職域を超えた教師の存在価値
【9】	学校改革の手順	学校の文化・風土の刷新法
9-1	視野・視界を拓くには	異世界を知ること得られるメリット 世相を斬る「眼」を持つ重要性
9-2	学校を改革する目的は何か	学校を「死に体」にしないために 学校改革は学校のためか
9-3	学校で最も重要なこと	教育活動を担保するもの 仕事を楽にするノウハウのありか
9-4	価値提供の新基準	顧客のROIを超えよ 全教員で答えるべき究極の質問
【10】	人間の本性とは何か	人間が人間であるために
10-1	人間とは何か	命とは何か、身体とは別のものか 感情はどこから生まれてくるのか
10-2	人間理解のアプローチ	哲学史に見る人間理解と「自我」 日本を発展させた日本的人間理解と「客我」
10-3	人間の本性を問う	生体メカニズムに見る社会性の基盤 西洋型合理主義と日本文明
10-4	桜に見る日本精神	日本人はなぜ桜を愛でるのか 武士道が示す理想の生き方
【11】	リーダーシップの強化	他者を導ける自分になる
11-1	前に踏み出す力	主体性・働きかけ力・実行力 →無行動は停滞ではなく退化
11-2	考え抜く力	課題発見力・計画力・創造力 →リーダーシップを生み出すもの
11-3	チームで働く力（1）	発信力・傾聴力・柔軟性 →コンフリクト解消の条件
11-4	チームで働く力（2）	状況把握力・規律性・ストレスコントロール力 →妥協ではなく凌駕のために
【12】	リスク管理と事業継続	危急の時にこそ頼られる教師となる
12-1	リスクとは何か	リスク対策には二面性がある リスク管理～4つの確認ポイント
12-2	社会が求める要件	コンプライアンスとCSR 職場のリスク管理ルール採点法
12-3	批判の餌食とならないために	リスク低減の見直し7ポイント マスコミが作り出す虚像
12-4	子どもたちと同僚を守るために	判例から学ぶ責任の所在 危機時の事業継続を如何にして守り抜くか

<閉講に当たって>

エピローグとして、下記のメッセージをお届けいたします。

－動画にて 15 分程度－

この講座だけで教育の本領、そして教師の本分を伝えきることは到底できません。おそらく特別講座を組むなど、別途、皆様の知的欲求に応える必要が生ずることと思います。しかし本講座において教育ならびに教師に最低限求められる要件は解説できることと考えます。最後に以下のメッセージをお届けして閉講のご挨拶とさせていただきます。

1. この塾を創設した目的
2. 藤井が最も伝えたいこと
3. 21 世紀の教育界のあるべき姿
4. 日本文明を世界道德の基盤として敷衍する
5. 教育は国家国民の未来の基盤

この塾が日本の教育を変え、引いては我が国の真の再生につながることを心から願うばかりです。

近未来教育変革研究所  
所長 藤井秀一